

開館時間

9時～18時 (3月～10月)
9時～17時 (11月～2月)
※年中無休。入館は閉館30分前まで。

入館料

高校生以上 1,400円
4歳～中学生 700円
※広報紙と同時に配布している「海きらら市民優待券」を使用すると、佐世保市民は高校生以上990円 4歳～中学生500円で入館できます。

※7月18日(土)から西海パールシーリゾート駐車場は一定時間以上の利用は有料となります。駐車場や料金については「海きらら市民優待券」裏面でご確認ください。

☎西海パールシーリゾート ☎28-4187

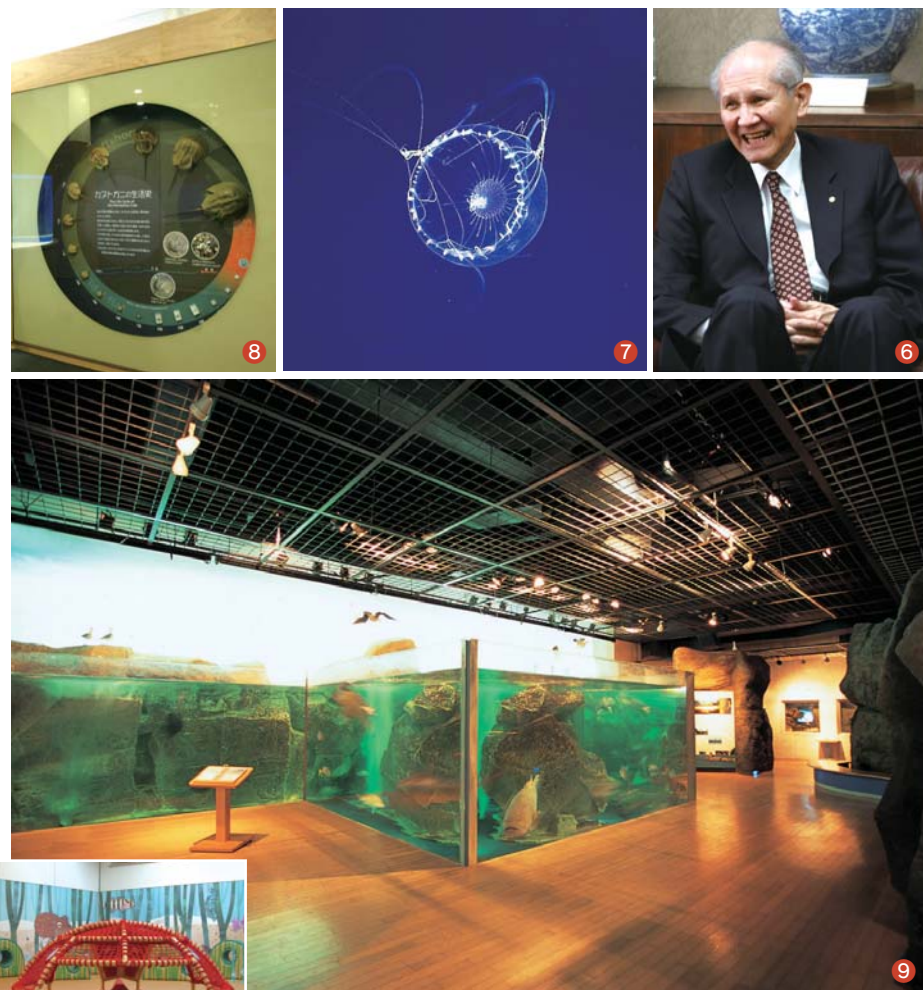
「九十九島債」購入者の海きらら「無料入館」

九十九島債の発行日と購入銀行によって必要書類が違います。来館前にご確認ください。

第1回九十九島債購入者 (平成20年4月30日発行)⇒7月初旬に郵送する「入館招待券」を持参

第2回九十九島債購入者 (平成21年4月30日発行)⇒購入時に銀行から渡された「債券取引報告書(親和銀行)」または「受渡計算書(十八銀行)」を持参
※無料入館は限定1回で4人まで。第1回と第2回両方の購入者は合計2回無料入館できます。

☎財政課 ☎24-1111



**九十九島の大自然を
ドラマチックに大公開!**

クラゲシンフォニードーム

九十九島の岩場で型を取った「擬岩」を張り巡らせた大水槽は、水深4・8m、水量650t。幅8m、高さ4mの水槽正面に使われているのは、厚さ約30cmの大型アクリル板です。

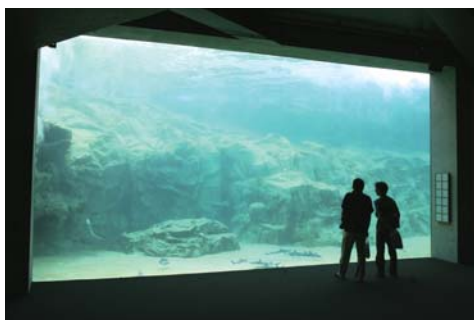
ゆっくりと水中を遊泳するクラゲが照明で浮かび上がり、幻想的な世界が広がるクラゲシンフォニードーム②。以前のドームシアターのスクリーンや音響装置を生かした、映像と照明、音楽が交響(シンフォニー)する、世界に例を見ない癒やしの空間は、国内最大規模のクラゲ展示施設です。

この大水槽は屋根がない屋外型水槽で、燦々と降り注ぐ太陽の下、九十九島にすむトビエイやイワシの群れなど約120種、1万3千匹の生き物が展示されています。魚類の産卵場所にもなる海草の「アマモ」も植えられ、水槽の中は九十九島の海をそのまま切り取ってきたよう。

九十九島周辺海域では約100種類のクラゲ③④⑤が確認されています。このドームでは大小11の水槽で入れ替えを行いながら、全種類のクラゲの展示を予定しています。

大水槽を囲む回廊式の通路や半円形トネル①からは、浅瀬から海中までの海の生き物たちが身近に感じられ、まるで九十九島でダイビングをしているような気分を味わうことができます。

地下にはクラゲ研究室があり、ノーベル化学賞を受賞された本市ゆかりの下村脩博士⑥のコーナーも設けられ、ノーベル化学賞受賞のきっかけとなった「オワンクラゲ⑦」は必見です。



九十九島湾大水槽

九十九島のカブトガニ

「生きた化石」とも呼ばれるカブトガニの貴重な生息地の一つでもある、九十九島このコーナーではカブトガニの生態や環境、成長過程が分かりやすく紹介されています⑧。

九十九島の外海

これまでの水族館の中心だった「シオラマ水槽」には砂を敷き詰め、表情も一新。新たに「五島の海水槽⑨」として、ウミガメやカラフルな亜熱帯性・温帯性の生き物約150種、2千匹を展示しています。

「海きらら」から九十九島を全国へ

九十九島の海に生える海草「アマモ」は魚の産卵場所。魚の子どもたちが集まる海の「アマモ場」のように、子どもから大人まで一緒に遊べる陸のアマモ場が「こどもひろば あまもば⑩」です。遊具で自由に遊べるだけでなく、スタッフによる本の読み語りや折り紙教室、物づくり体験など、子ども向けのプログラムも充実しています(一部有料。9月スタート予定)。

九十九島は国立公園として砂浜や磯、干潟などの自然がそのまま守られ、さまざまな生き物が生息しています。広々としたエントランスホールの先にある「九十九島の海へ」のコーナーでは、「海きらら」のテーマでもある九十九島の自然が分かりやすく紹介されているほか、水族館職員による特別展示水槽も設けられ、来館者の「わくわく」感をかき立ててくれます。

このほかにも館内各所で「きららプログラム」として、「ただ今イルカ訓練中」「パクパクウォッチング」「九十九島お魚教室」など生き物を紹介するプログラムが予定されています。

「海きらら」のオープンまであと少し。「海きらら」では、九十九島のさまざまな生き物を通して、自然の大切さや美しさなどを、これまで以上に全国へ向けて発信していきます。ご期待ください。